
完全無欠……？

鷹槻れん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

完全無欠……？

【Nコード】

N2629B

【作者名】

鷹槻れん

【あらすじ】

Dr.佐伯は人間そっくりの感情を持つ精巧なアンドロイドを作る事に成功した！しかし…。

5月9日――。

この日は、私にとって人生最良の日だった。

「ドクター、何をニヤニヤしてるんですか？」

「……あ、いや、何でもないよ、ロマンス」

そう、この子――ヒューマントイロボット、製造ナンバー【RZ-3-EE】、愛称ロマンス――が完成した日。苦勞して造ったが故にここ数日間、何の問題も起こらず彼が起動していることが、この上なく嬉しい。

ロマンスを造るに当たって、私はあるひとつの事柄にのみ重点をおいて研究を重ね、他のロボットには類を見ないくらい人間らしくした。我ながら病的だったかも？とさえ思う。

聴覚、視覚、嗅覚、味覚、触覚、それに感情……etc……etc……。

これらは、私がロマンスを造る過程において最も苦勞した項目だ。その他の知識などはおいおい学習していけばよい事だと思う。

そんな彼と暮らし始めたのは5日ばかり前の話。

で、私は昨日嗅覚の具合を知るために、食べ終わった後の皿についた残り香を利用して彼に桜餅の匂いを教えてやったのだ。

まあ、たまたま目に付いたからそれを使っただけで、この匂いを教えたことにはさしたる意味はなかったのだが。

「ドクター、今日はスーパーって所に連れて行って下さるんですよね？ 桜餅、僕にも買うこと出来るでしょうか？」

「うん。そうだな。心配はないと思うぞ？ お前は金の概念も分かってるんだしな」

彼がこんなにも桜餅に興味を持つ、というのは私にとっては予想外のことだった。それに――。

スーパーへの道程のここに立ち並ぶのは桜の木。

青い葉がちらほらと徐々に散り始めたその根元には、毎年恒例の毛虫のフンが散乱していた。

桜の木というのは毎年毎年、本当によく毛虫をつける木だ、と思う。桜の新芽は相当旨いと言ったことか？ 何にせよ、もうそんな時期になったんだな。

見慣れた景色の中を、そんなことを思いながら何の気なしに歩く私。対して横に並んで一緒に歩いているロマンスには、全てのものが珍しくて仕方がないらしかった。

歩きながら始終キョロキョロと辺りを見回す姿は、おのぼりさんよろしくどこかそわそわした様子だ。

と、それまでは周囲を興味深げに観察しているだけだったロマンスが、急に立ち止まった。

“どうしたんだ？”

そんなニュアンスを込めて投げかけた私の視線に、ロマンスが瞳を輝かせる。

「ドクター、僕、足元に桜餅が落ちていると思いますー!!」

「……は???」

ロマンスの言っていることの真意が掴めずに間の抜けた声を出してしまった直後、ある1つのことが脳裏をかすめた。

(いや、いくら彼だつてそんなことは……)

掠めた直後に頭を軽く振ってその考えを抹殺。それなのに――。

「ほら、この匂い、昨日ドクターに嗅がせて頂いた桜餅の匂いにそっくりです。――ね？」

スツとしゃがみ込んで小さな楕円の物体を手にとると、私の鼻先に近付けてにつこり笑う。

彼の手をしているもの――。

言わずとも分かるう。そう、“毛虫のフン”だ。

確かに匂いは似ている。

しかし――。

「ロマンス、それはね、匂いも似ているし、元の素材も昨日話した桜餅と、ある一定の部分においては一緒だ。だがな、桜餅とは違うものなんだよ？ 分かるかい？」

私の言葉をキョトンとした瞳をして受けるロマンス。

桜餅の実物を見せずに、それが乗っかっていた皿についていた残り香だけでその匂いを教えた昨日の自分が、何だかとても恨めしい。

ほうっと1つため息をついて、私は新たな言葉を探し始めた。

こんな風にして、万能だと信じてきた科学の、実はそうではないところを発見していくんだろう。

そんなことを思いながら……。

(後書き)

最後まで読んでくださって有難うございます m ((m

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2629b/>

完全無欠……？

2011年1月28日03時23分発行